

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道気付
(Tell) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

インターネットでできること

富田 健市

はじめに

図書館においても、インターネットという言葉を目にする機会が多くなってきました。また、実際に使っている図書館員の数も着実に増加しています。さらに、昨年デモが実施された、電子図書館システム「Ariadne」によって、身近なものになったことを実感された方も多いと思われます。しかしながら、新しいものが登場する時の常として、名前ばかりが先行し、実態がどのようなものであるか把握しかねている方も多いのではないのでしょうか。ここでは、そのような方たちに、インターネットでできることの概略を紹介することにより、さらに理解を深めるためのきっかけを提供できればとおもっています。

さて、できることの概略と書きましたが、このできることは日進月歩というより、時々刻々と拡大しています。インターネットについて書かれた多くの本が出版されていますがそれらによく登場するのが「ネットのことは、ネットに聞け」という言葉です。紙のようなものに固定された瞬間に、その情報は古くなっているということです。したがって、この文も、もちろん古くなっていますので、現在なにができるかは、実際にインターネットに接続して確認するしかありません。

と、書いて責任を果たせるなら、とても楽なのですが、そうもいきませんので、もう少し続けます。

1. 定義してみると

まず、それではインターネットって何なのか？ということです。これについては、入門書がたくさん種類出版されており、いろいろな定義がされていますが、ネットワークのネットワークである、という点では一致しているようです。一例をあげれば、「インターネットは世界中に広がった数百万の人々をつなぐ数千のコンピュータ・ネットワークのゆるやかな混合体です」

(『Internet
ビギナーズガイド』/
T. ラクウェイ J.

目次	インターネットでできること (富田健市) …… 1頁
	ルリユールダール展を開催しました (堤美智子) … 3頁

C. ライア著 鈴木撰訳 1993年 トッパン発行 第1章冒頭)となります。また、機能面からみてみると、自分の使っているワークステーション(以下WS)等を、インターネットに接続すると、同じように接続されている世界中のWS等を遠隔地からリアルタイムで使うことができるし、逆に世界に向かって情報を発信することもできる、ということもいえると思います。もちろん、文字コード等の技術的問題や著作権等の制度的問題もあり、無条件にすぐ機能が実現するというわけではありません。

さて、このように定義だけしてみても、では何ができるのかがなければ、具体的なイメージがつかめないのではないのでしょうか。そこで、いままでに実際に使ってみた機能をいくつか紹介してみます。

2. 基本機能の紹介

まず、最も基本的な三つの機能として、`telnet`、`ftp`、`e-mail`があります。`telnet`を使うと、相手のWS等を直接使うことができます。WS等を使うには相手の側のユーザIDが必要ですが、ゲストIDを準備してくれているところも多くあります。また、逆にいつも使っているWS等を別の場所から使うこともできます。現在、多くの図書館の`opac`がインターネット上で公開されていますが、それらの大部分は、`telnet`で接続し、ゲストIDで利用するものです。次に`ftp`ですが、これは相手のWS等にあるファイルを自分のWS等に複写するものです。インターネット上には、複写可能なファイルが大量に存在します。誰でも複写可能なものは、`anonymous ftp`サイトという名前で公開されています。図書目録の世界でよく使われる`anonymous`という言葉ですが、現在ではインターネット上で使われる頻度のほうが高いのではないのでしょうか。なお、公開されている情報には、文章だけでなく、画像、動画などもあります。また、著作権フリーのものが多いのですが、そうでないものもあるので再複写には注意が必要です。最後に、`e-mail`ですが、これは学術情報センターの電子メールとみかけ上は似ています。違うのは、ホストというものがなく、手紙が自分のWS等に直接送られてくることです。また、`e-mail`の機能にはML(メイリングリスト)と呼ばれるものがあります。これは、共通のテーマをもつ人たちによる会員制のもので、特定の宛先に`mail`を送ると、全ての会員に送信されます。また、全ての会員の`mail`を読むことができます。図書館関係のMLもあります。

3. 便利な機能

基本機能だけでも、インターネットの世界を利用することができます。しかしながら、現在接続されているWS等の数は数百万といわれ、日々爆発的に増加しています。蓄積されている情報量も多種多様で、原則として相手の住所(インターネットではIPアドレスとドメイン名がそれにあたります)を知らないと使えない基本機能だけでは、初めて入った巨大な書庫の中で本をさがすようなもので、有効利用は期待できません。このため、必要な情報を入手するための機能が多く登場してきました。詳細に触れる余裕がありませんが、代表的なもの名前だけあげると、`Archie`、`Wais`、`Gopher`、`WWW`

といったものがあります。これらを駆使することにより、インターネット上の情報を効率的に利用することができます。

また、有効利用のための機能とは異なりますが、ネットワークニュースという機能もあります。これは、学術情報センターの電子掲示板にも、いくつかのものが転載されていますが、カテゴリーにわかれており、世界中に配布されているものから、特定の大学や団体内だけに配布されるものまであります。京都大学内向けには、KUという名前のカテゴリーがあります。ここでも、多くの情報がとびかっています。

おわりに

かけ足でインターネットでできることを紹介してきましたが、要約すれば、非常に大きな情報源として利用できると同時に、利用者自身が簡単に情報源になれるものということになるのではないのでしょうか。したがって、どのように使うかは利用者にかまかされています。図書館員という利用者が、どのように情報源を利用し、どのような情報を発信していくかが、これからの大きな課題であるといえます。そして、そのひとつの回答が電子図書館であるといえるのではないのでしょうか。(とみた・けんいち/京都大学附属図書館)



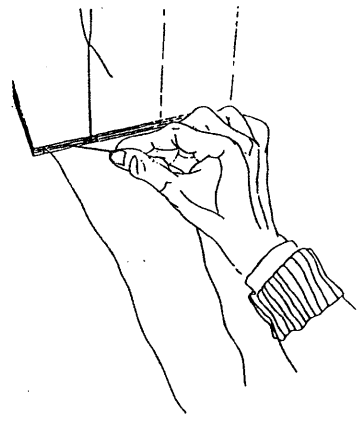
ルリユールダール展を開催しました

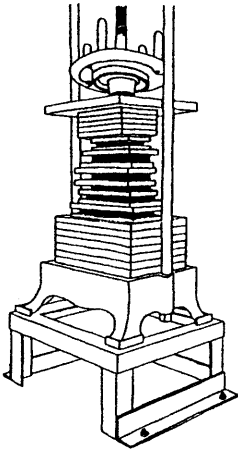
文責 堤 美智子

1994年10月17日に京都大学の生協会館ルネが新しくオープンしました。この会館は全体の半分のスペースを書籍部が占め、全学の書物に関する情報と書物を必要とする人々の集う場所となっています。そこで私たち、京都工芸製本人協会では本好きの人たちに見てもらおうとルリユールダール (reliure d'art) 展を企画し、1995年1月10日～21日の間、会館ルネの玄関ホールで開かせていただきました。

出品したメンバーは7名、出品点数は19点です。1993年11月に初めての展覧会をした時には、布表紙のプラデルという比較的簡単な工程の本が中心になりました。

今回は受付も置かず、アンケート方式で展覧会の感想を書いて頂くことにしました。いただいた感想や意見には、「きれいだ」、「根気のいる仕事だ」、「本によせる愛情を感じる」、「実にすばらしい」、「色彩感覚が良い」など私たちアマ





チュアには、一寸面映ゆい感想をいただくことができました。その一方、「背文字に無頓着すぎるのではないか」、「会場が落ち着かない」、「展示ケースの位置が悪くて見にくい」などのご意見もいただき、今後取り組む課題がみえてきました。

期間中、150部ほど準備したカタログがなくなつたので、少なくともその位の数の方には見ていただけたと喜んでます。開催期間中にあたる17日には阪神大震災がおり、兵庫支部の方達の消息が随分気懸かりでしたが、家屋や家財の損害はあったものの、なんとかご無事な様子がわかってほっとしました。

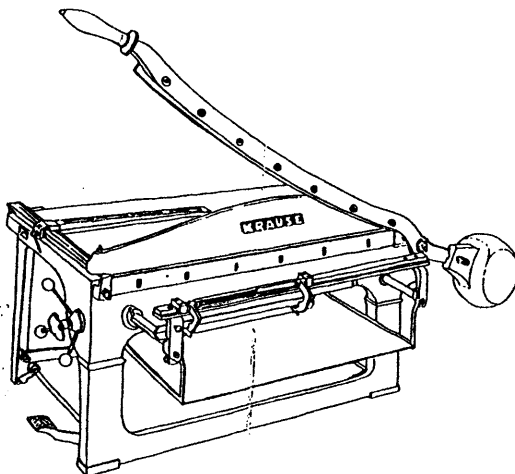
お忙しいなかを展覧会を見にきて下さった方々、ご協力いただいた方々にあらためてお礼申し上げます。最後に私たちの協会の設立趣意書とも言える文章を会場に掲げておりましたが、皆様にお読みいただきたく、ここに再掲いたします。

Reliure d' Art

Reliure は、人が物事を記録し、これを保存する必要から生まれた本づくりの技術を、美術工芸の域にまで高めた、ヨーロッパ生まれの伝統的な技術です。長い歴史と奥行の深い文化のなかで、製本技術のうえで、いろいろな工夫と取捨選択がなされ、現代に受け継がれています。仮とじされた書物が、いったん解体され、あらためて丁寧に本に仕立てなおされた後、上質の皮を用いて製本された姿は、いわば、格調あるオブジェとも言えるでしょう。

ルリユールは、全部で58工程をへるため、一冊の書物を製本するために、250時間を要します。ゆったりとした”本と共にある時の流れ”のなかにあると実感するときが、ルリユールを学ぶよろこびかも知れません。

一冊の書物のイメージにもっともふさわしい素材をえらび、そのもち味にさからわず、生かす本づくりがルリユールの真髄です。決められた工程を忠実にまもりながら、新しい試みをさりげなく、しのぼせることができればと願いつつ、心をこめて作り上げてゆきます。すべての工程を息をつめるような思いでくぐり抜けると、玲瓏たる書物が誕生している、望み得る最上のルリユールのイメージとは、そのようなものだと考えます。



京都工芸製本人協会

(つつみ・みちこ / 京都大学人文科学研究所)